

1 本年度の学校教育目標

ふるさとを愛し、自ら学び、未来を切り拓く建屋っ子の育成

2 本年度の学校重点目標

めざす子ども像(地域の未来に貢献できる子)	○学ぶことの大切さ、楽しさを知り、自ら学ぶ子(知) ○自分の思いを伝え、人の思いに耳を傾け、よりよく生きようとする子(徳) ○自分の心と身体を知り、健全に生きようとする子(体)
めざす学校像(児童・教職員・保護者・地域がつながる学校)	○子どもの夢と志の実現を支える学校 ○一人一人が大切にされ、安全・安心な学校 ○一人一人が大切にされ、安全・安心な学校 ○保護者や地域と共に歩む信頼される学校
めざす教師像(地域の担い手と地域を育てる教師)	○使命感、教育愛に満ち、児童の良さや可能性をのばす教職員 ○人権感覚に優れ、子どもとともに学ぶ教職員 ○自らの資質能力と実践的指導力の向上を図り、児童・保護者・地域から信頼される教職員
期待する家庭像(地域の方とともに地域の担い手を育てる家庭)	○親子で目標を決め、目標に向かって努力する家庭 ○家族同士で「あいさつ」を交わし合う家庭 ○基本的生活習慣を身につける家庭 ○学校や地域の行事に進んで参加・参画する家庭
期待する地域像(児童と学校とつながる地域)	○学校の重点目標を共有し、共に進める地域 ○子どもの安全・成長を見守る地域 ○地域行事に子どもたちが参加・参画する地域 ○学校教育・家庭教育を支える地域 ○学び続ける大人がいる地域

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校運営・協働体制	◆コミュニティ・スクール(地域とともにある学校) ◆小規模特認	A	○「学校」「家庭」「地域」「関係機関」の4者協働による教育活動が推進できた。 ○農業体験、ふるさとキャリア学習、外国語活動、秋季大運動会、「たきのやフェスティバル」 ○学校運営協議会を定期開催(4回)し、教育活動に対し広く意見を聴取できた。 ○校区自治協との連携によるE-parkを開催し、市内の未就学児童・保護者の学びの場づくりを進めた。また、夏のオープンスクールでは、大人向け英会話教室を開催できた。 ○他県および本県の教育関係者による視察を受け入れ、小規模特認校制度について広報できた。 ○視察対応2件(県内2)、県教育委員会異動教育委員会学校訪問(19名) ○養父市教育委員会と連携し、各事業や広報活動を推進できた。 ○養父市・パース市交流事業：6年児童6名参加。芸能人招聘による英語のスピーチコンテスト(2月) ※学校評価(保護者)：「小規模特認」肯定的評価：100%、「期待に応える教育」100%、「コミスク」97.7%
	◆保護者・地域・関係機関との連携 ◆校種間連携(幼小、小小の連携、小中一貫)	A	○学校により(月2回)や自治協により(月1回)、ホームページ(週1回更新)を通して本校の特色ある教育活動を周知できた。 ○「そうあんくん新聞」や「お手伝い大作戦」「Challenge100」を通して保護者との連携を図ることができた。 ○オープンスクール(夏・秋・冬)や体験入学(5歳児・年2回)にのべ530名を超える来校者があった。 ※学校評価(保護者)：「家庭との連携」「オープンスクール」100% ○こども園5歳児のオープンスクール参加、こども園へのALT派遣、6年生中学校登校、小中一貫教育部会での共通実践(ノート指導)等の取組を通して幼小中の縦のつながりを強化することができた。 ※教職員評価：「小中一貫教育の充実」100%
学習指導・生活指導・健康安全	◆確かな学力(知)	B	○兵庫型学習システム推進員(2名)の活用により、複式の良さと単式の良さを生かした指導が実践できた。 ○YABUSクールチャレンジ事業(造形指導)を通して、表現力の育成を図ることができた。 ※学校評価(保護者)：「造形活動を楽しむ」90.9%、教職員評価「成果が上がっている」100% ○懇話会や教育講演会の機会を利用し、SNS利用ルールの周知と情報モラルの育成を図ることができた。 ▲学習タイム(がんばりタイム、たきのやタイム、お話広場)の充実を図り、基礎基本の定着と読書活動の充実を図ったが、児童の主体性を促すことや保護者の理解を得るまでには至らなかった。 ▲主体的な学び、基礎基本の徹底、学力の定着に課題(保護者・教職員アンケート) ※学校評価(保護者)：「自ら学ぶ姿勢」86.4% 「学習タイム等を通じた学力向上」88.6%
	◆豊かな心(徳) ◆人権、道徳、多文化共生教育	A	○全校児童が現地調査や取材を通して「ふるさと学習」を進め、県立ピッコロ劇団の指導を受けながら「ふるさとたきのや物語」を上演し、参観者から高い評価を得た。 ○いじめアンケートや生活アンケート、児童観察を通して、いじめや問題行動の早期発見・対応に努めた。 ○不登校傾向の児童や保護者、関係機関と密に連携(電話連絡・家庭訪問)し、良好な関係を築いた。 ○ALTによるET(Enjoy Takinoya)タイムや掲示板、外国語活動を通して、多文化理解が進んだ。 ※児童評価：「学校が楽しい」97.7%、▲「自分の良い所が言える」60.0% ※学校評価(保護者)：「いじめや暴力のない学校づくり」97.7%
課題教育	◆健やかな体(体) ◆食育・健康・安全 ◆防災教育	A	○栄養教諭を招聘した食育指導や食育だより・保健だよりを用いた啓発活動を通して、児童や保護者の健康に対する意識を高めることができた。 ○家庭や学校医、関係機関と連携を図り、感染症の拡大防止と早期対応に努めた。(閉鎖・臨時休業0) ○寄贈された運動用具を利用して、休み時間や昼休み、体育の時間に運動に親しむ児童が増えた。 ○本校に在籍するEARTH員の活用により、実践的な避難訓練(年3回)や防災集会が実施できた。 ○校内マラソン大会に向け、自ら運動に親しむ態度を育むことができた。(体力アップサポーター活用)
	◆キャリア教育 ◆特別支援教育 ◆情報教育	A	○キャリア学習会(年2回)を通してより良い生き方について考える態度が育成できた。 ○特別支援教育専門員(但馬教育事務所)との連携により、教職員の児童理解が進んだ。また特別支援教育に関する校内研修が充実した。 ○情報教育に係る年間指導計画を作成し、系統的な指導につなげることができた。
教職員	◆教職員の育成 ◆教職員の協働体制	A	○「懲戒処分指針」等を用いた服務研修、事例研修を通してコンプライアンスの向上に努めた。 ○ミドルリーダーを中心としたOJT、校内研修により、実践的指導力の向上が図られている。 ○Networkingタイムの英語以外の教科での実践、講師招聘による「対話的な授業」づくりに向けた校内研修 ※教職員アンケート「教職員研修の充実」：肯定的回答100% ※学校評価(保護者)「教職員の姿勢や言動は温かい」100%、「毅然とした厳しさがあるか」100%
	◆働き方改革 ◆業務改善 ◆その他	B	○定時退勤日の完全実施、長期休業中の学校閉庁、業務改善アンケートによる実態把握と改善ができた。 ○校時表や下校時刻、年間計画の見直しにより、放課後の時間等にゆとりが生まれた。 ※スロースタート(夏季休業明け3日間)、Longたきのやタイム(児童の主体的な活動・毎週水曜) ※教職員評価 風通しの良い職場、業務改善・働き方改革、やりがい3項目とも100% ○「たきのやっ子応援団」による登下校の見守り、環境整備、ボランティア活動

4 総合的な学校関係者評価

\*全体的に令和4年度から5年度にかけて評価が上昇している。  
\*R4評価も非常に高い評価であるが、R5評価ではさらに肯定的評価の割合が高くなっており驚くとともに、先生方の日頃の取組の成果に感謝している。  
\*地域との連携、オープンスクール等、建屋小学校ならではの取組が素晴らしい。  
\*特認校・コミスクであるので、保護者は色々な思いを持って建屋小学校に入学させている。その中で、地域はとてとても頑張られていると感じるが、残念なことに全体的に保護者の関わりや活動が少ないと感じる。保護者の親睦はこれからの特認校、またPTAに必要不可欠である。  
\*保護者の皆さんの先生方に対しての評価が全体的に高い。児童一人一人に対しての思いやりや気遣いが行き届いていること、保護者の方の先生方に対する安心感が伝わってくる。

5 評価項目に対しての学校関係者評価

学校自己評価の適切さ
【挨拶】 *昼休みや下校時の声と、時々学校を訪れた時の声の違い(明るさ、大きさ)がある様に感じる。元気な子どもの声がいつも聞こえる学校であって欲しい。 *挨拶については、全体的に声が小さい、またしなやかと感じる。家庭での会話が少なくも原因であると思うが、若い先生の挨拶も少ないように思う。 *先生や知っている人に挨拶できるだけでなく、あまり知らないけど行事などで集まっている人には出来るだけ挨拶できるようになって欲しい。
【学習指導・学習習慣】 *コミュニティ・スクール、特認制度に力を入れた数年間であったと思う。その中でも、一人一人に目を向けた学習指導がされていた。 *家庭内での勉強の仕方(復習等)について、個々の保護者とのコミュニケーションはとれているのか。少数なので対応しやすいと思うので、その点も踏まえて家庭と連携されてはどうか。学習面のことが特に学校任せになっているのではない。 *子ども達の自主性を高めていただきたい。 *基礎学力の定着に対する取組も、様々な手法・機会を使って実施してもらっていると思う。ただ、それだけでは子どもの学力が表面的に高まって表れにくいと思う。学校で学習したことを家で復習することにより身につけていくと思うので、「自ら学ぶ態度」と「学習支援の取組」がセットになって学力が高まるのではないかと。学習支援対策については、今すぐ効果が表れるというものではないので、将来的に「学習に対する姿勢」が身につけば良いと思う。
【生活指導・人権教育等】 *これからの子ども達には、グローバルな環境・英語力の強化は必須だと感じている。(人権同和教育をはじめ)やはり人に対する思いやり・気遣い・優しさのある教育は必要である。 【保護者アンケート・生活アンケート(児童)】の結果 ・先生の目のないところで人を傷つけたり笑ったりする場面があると感じることだが、相手が不快な思いをしたなら、それは「いじめ」であるという意識をもって対応をして欲しい。 ・安心して楽しい学校生活を送れるのが良い。学校についての意見であるから(要望や感謝が中心の)回答になるのだと思うが、先生任せでなく、家庭でも子どもともう少し話すことが必要だと思う。 ・今の時代だからしかたがないかもしれないが、テレビ・ゲーム・ネットを使用する時間が長いと感じる。その事が次の日の用意であったり、家の手伝いや学習に良い影響を与えていないのではないかと。もう少し親と子が話す時間が必要だと思う。 ・「学校生活が楽しいですか」の問いに対する回答が、「楽しい(46.7%)」「少し楽しい(44.4%)」「楽しくない(2.2%)」となっているが、「少し楽しい」は「楽しくない」に等しいのではないかと。 ・困った時や嫌な事があった時の相談相手が増えたのはとても良い傾向だと思う。 ・昨年度に比べ、相談する児童が大幅に増えている。
【教職員】 *教職員アンケートの各項目の評価が非常に高く、各先生の意識の高さがうかがえる。 *各先生がいろいろな事にチャレンジされ、子ども達とともに明るく元気であることが安心につながっている。 ・大変良い評価で安心した。先生方が生き生きと働いていないと、「明るく・楽しく・子ども達が行きたくなる学校」にはならない。管理職をはじめ先生方が健康とワークライフバランスを意識した働き方、環境づくりに取り組まれているからだと思う。